

### 1 調査の概要

(1) 調査期日 令和6年4月18日(木)

(2) 調査内容 児童生徒に対して、教科に関する調査と質問紙調査を実施。学校に対して、質問紙調査を実施。

※本市の結果のうち、黒字は全国と同等もしくは上回った教科、白字は下回った教科。  
 ※全国の平均正答率のみ、小数第1位まで公表されている。  
 ※県、全国いずれも数値は公立校の結果を示したものの。

### 2 結果の概要(教科別平均正答率)

		小学校第6学年		中学校第3学年		
		国語	算数	国語	数学	英語
R6	大分市	<b>70</b>	<b>64</b>	<b>58</b>	<b>51</b>	
	大分市(平均正答数)	9.8/14	10.2/16	8.7/15	8.2/16	
	県	69	63	58	50	
	県(平均正答数)	9.7/14	10.1/16	8.6/15	8.1/16	
	全国	<b>67.7</b>	<b>63.4</b>	<b>58.1</b>	<b>52.5</b>	
	全国(平均正答数)	9.5/14	10.1/16	8.7/15	8.4/16	
R5	大分市	69	66	68	49	42
	県	69	64	69	49	41
	全国	67.2	62.5	69.8	51.0	45.6

- 令和6年度 【全国平均以上(平均正答率)を達成した教科数】・・・3/4 (75%)
- 令和5年度 【全国平均以上(平均正答率)を達成した教科数】・・・2/5 (40%)

### 調査結果

#### <平均正答率・正答数>

	大分市	県	全国
正答率	70	69	67.7
正答数	9.8/14	9.7/14	9.5/14

#### <内容別平均正答率> ※本市の結果のうち、白字は全国平均を下回ったもの

内容	大分市	県	全国
言葉の特徴や使い方に関する事項	66.6	65.7	64.4
情報の扱い方に関する事項	88.0	87.6	86.9
我が国の言語文化に関する事項	77.4	76.9	74.6
話すこと・聞くこと	61.7	60.6	59.8
書くこと	69.3	70.4	68.4
読むこと	74.2	73.8	70.7

【学習指導要領における領域・内容】第5・6学年 書くこと(1)ウ

【出題の趣旨】よさについて考えた内容を自分の考えが伝わるように書き表している。

【誤答の傾向】・無解答 3.8%  
・1つ目の条件を満たしていない 33.7%

#### 【指導上の留意点】

- 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えて表現できるよう指導することが必要である。
- 授業においては、目的や意図に応じて、付箋やカードに事実と考えとを区別して書かせた後、適切なつなぎ言葉を考えるなど書き表し方を工夫して、まとまった文章を書く活動を取り入れることが考えられる。

### 課題が見られる問題

#### 【高山さんの文章】

##### みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に応えんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アキようぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをイナげるようにしています。

○ ○ ○ (条件)  
「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。  
○ 「高山さんの取材メモ」の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。  
○ 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

#### 【高山さんの取材メモ】

##### 「たてわり遊び」について

6年生がくふうしていること

- 遊びたいことを下級生に聞く
- ルールをくふうする

ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる

##### 下級生に聞いたこと

- 1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
- 3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
- 4年生 みんなが楽しそうであれよかった

二 高山さんは、次の「高山さんの文章」の考えた「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたが高山さんなら、内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましよう。

	大分市	県	全国
正答率	58.1	60.6	56.6
無解答率	3.8	3.3	4.9

### 調査結果

#### <平均正答率・正答数>

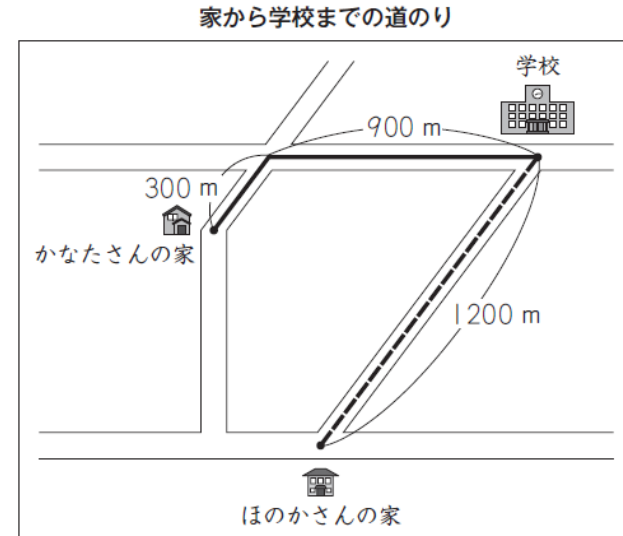
	大分市	県	全国
正答率	64	63	63.4
正答数	10.2/16	10.1/16	10.1/16

#### <内容別平均正答率> ※本市の結果のうち、白字は全国平均を下回ったもの

領域	大分市	県	全国
数と計算	66.6	66.0	66.0
図形	67.6	66.8	66.3
変化と関係	48.6	48.3	51.7
データの活用	62.8	61.9	61.8

### 課題が見られる問題

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 かなたさん

2 ほのかさん

	大分市	県	全国
正答率	27.3	26.8	31.0
無解答率	2.3	1.6	2.4

【学習指導要領における領域・内容】第5学年 C(2)異種の二つの量の割合  
 【出題の趣旨】道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。

【誤答の傾向】・「道のり」と「時間」に着目した説明ができていない 11.1%  
 ・道のりが等しい時の速さを時間の短さに着目して比べることに課題がある。

#### 【指導上の留意点】

- 速さの指導に当たっては、速さは一つの量だけでは表すことができない事象であり、「道のり」と「時間」という異種の二つの量の割合として捉えることが必要である。
- 授業においては、「道のり」か「時間」のどちらかが等しい場合の速さ比べを行い、「道のりが等しい時、時間が短いほうが速い」等の説明ができるよう、一方の量が等しい時、もう一方の量がどうなれば速いと言えるのか、言葉、図などを用いて表現させることが大切である。

### 調査結果

#### <平均正答率・正答数>

	大分市	県	全国
正答率	58	58	58.1
正答数	8.7/15	8.6/15	8.7/15

#### <内容別平均正答率>

※本市の結果のうち、白字は全国平均を下回ったもの

内容	大分市	県	全国
言葉の特徴や使い方に関する事項	60.7	58.8	59.2
情報の扱い方に関する事項	58.1	57.8	59.6
我が国の言語文化に関する事項	81.3	80.3	75.6
話すこと・聞くこと	57.6	58.3	58.8
書くこと	63.9	63.4	65.3
読むこと	48.1	47.5	47.9

【学習指導要領における領域・内容】第1学年 書くこと(1)ウ

【出題の趣旨】表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。

【誤答の傾向】・無解答 19.2%

・条件イを満たしていない 23.9%

【指導上の留意点】

- ・ 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるよう指導することが必要である。
- ・ 授業においては、伝えたいことを明確にした上で、クラゲチャート等の思考ツールを用いて、表現の工夫とその効果について考える学習活動を取り入れることが考えられる。

### 課題が見られる問題

四 佐藤さんは、「物語の下書き」の [ ] の部分で、「フートの一部」の [4] の場面の「僕」の心情を伝えて物語を終えようとしています。あなたがアで書いた表現には、どのような効果があるのかを具体的に書きなさい。

ア 「あの日から数日が過ぎた。」に続けて、表現を工夫して書きなさい。

イ あなたがアで書いた表現には、どのような効果があるのかを具体的に書きなさい。

① あの日も僕は、君の部屋の本棚の隅でじっと待っていた。ほこりだらけになりながら。中学生になってから、君はオンライン辞書を使うようになった。以前はよく、印を付けたり、書き込みをしたりしてくれたのに。君との距離は、ずいぶん遠くなってしまった。

② インターネットだと、複数の辞書にアクセスできるから、タブレット端末だけを持ち運べばよい。単語さえ入力すれば、すぐに知りたいことを教えてくれるし、かさばらないし。君にとっては、とても便利なのだろう。僕なんて、このまま忘れられてしまうのかな。

③ そう考えていたとき、君は僕を手を取った。学校にタブレットを置いてきたのだろうか。久しぶりだったから、僕はびっくりし、君はほこりで大きくしゃみをした。ほこりだらけの僕に顔をしかめたけれど、何度もページを繰っては、いろいろな言葉の意味を調べていた。当然、いつもよりは時間がかかっている。調べなければならぬ言葉だけでなく、近くにある言葉にも線を引き、意味を確認する君。意味調べが終わっても、君は僕をいつもの場所に戻さなかった。しばらくページを繰り、小学生のときに印を付けた言葉や書き込んだ言葉を読み返していた。君はみちたりた表情をしていた。僕は自分が認められたような気がした。

[4] あの日から数日が過ぎた。

	大分市	県	全国
正答率	48.7	48.3	49.3
無解答率	19.2	17.8	15.0

### 調査結果

#### <平均正答率・正答数>

	大分市	県	全国
正答率	51	50	52.5
正答数	8.2/16	8.1/16	8.4/16

#### <領域別平均正答率> ※本市の結果のうち、白字は全国平均を下回ったもの

領域	大分市	県	全国
数と式	50.7	49.4	51.1
図形	37.4	36.5	40.3
関数	60.1	59.5	60.7
データの活用	53.4	52.8	55.5

【学習指導要領における領域・内容】 第2学年 B(2) 図形の合同

【出題の趣旨】 筋道を立てて考え、証明することができる。

- 【誤答の傾向】
- ・ 無解答 36.2%
  - ・ 結論AQ=PBを仮定として用いている 11.9%
  - ・ AC=PC、CQ=CBまでしか示せていない 8.5%

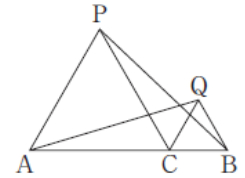
#### 【指導上の留意点】

- ・ 第2学年の証明の指導に当たっては、証明の筋道を想定させ、根拠をもとに用語や記号を用いて自分なりに表現することから始め、よりよい証明に改善していくことが大切である。
- ・ 授業においては、証明する図形を明確にした上で、仮定から導かれる事柄を明らかにしたり、結論を導くために必要な事柄を結論から逆向きに考えたりする。また、推論の過程に誤りのある証明を読んで修正箇所を話し合わせるなど、証明を吟味する活動を適宜取り入れることが必要である。

### 課題が見られる問題

- (1) 桃子さんは、コンピュータを使って調べたことから、点Cが線分AB上のどこにあっても、 $AQ = PB$ になると予想しました。

桃子さんの予想した $AQ = PB$ がいつでも成り立つことは、 $\triangle QAC \cong \triangle BPC$ を示すことで証明できます。 $AQ = PB$ になることの証明を完成しなさい。



証明

$\triangle QAC$ と $\triangle BPC$ において、

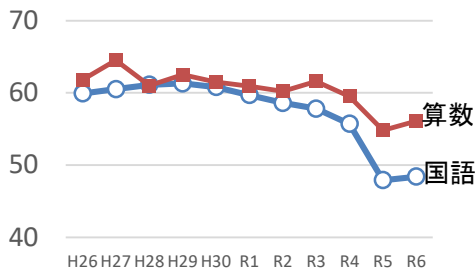
合同な図形の対応する辺は等しいから、  
 $AQ = PB$

	大分市	県	全国
正答率	21.0	19.0	25.8
無解答率	36.2	38.8	33.6

※大分県学力定着状況調査及び全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査による

### (1)-1 教科の勉強は好きですか (肯定的回答率)

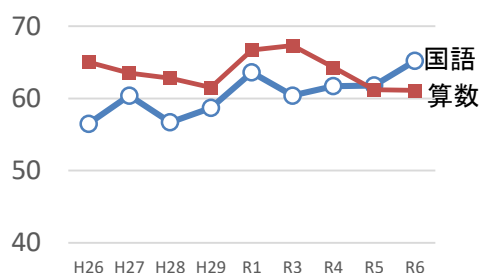
#### 小学校(小5)



R6	大分市	県
国語	48.4	49.9
算数	56.1	55.2

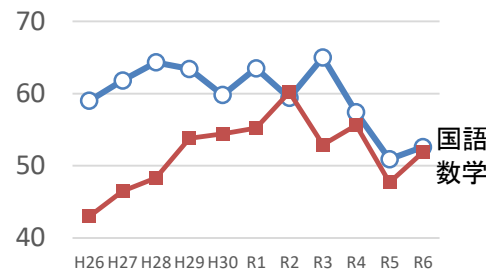
※全国の数値はない

#### 小学校(小6)



R6	大分市	県	全国
国語	65.2	68.1	62.0
算数	61.1	62.2	61.0

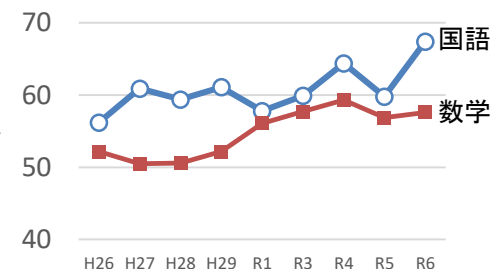
#### 中学校(中2)



R6	大分市	県
国語	52.6	53.3
数学	51.9	49.2

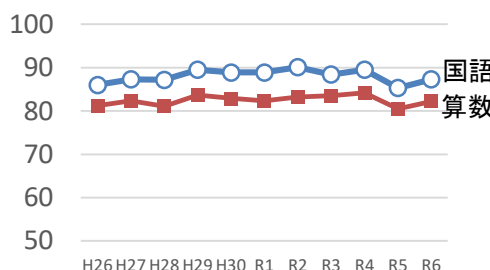
※全国の数値はない

#### 中学校(中3)



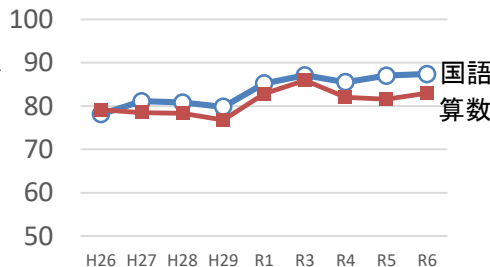
R6	大分市	県	全国
国語	67.4	70.2	64.3
数学	57.6	57.4	57.2

### (1)-2 教科の授業はよく分かりますか (肯定的回答率)

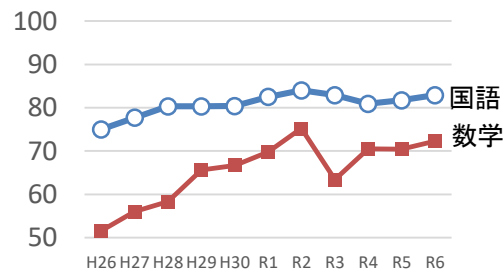


R6	大分市	県
国語	87.3	86.8
算数	82.2	81.5

※全国の数値はない

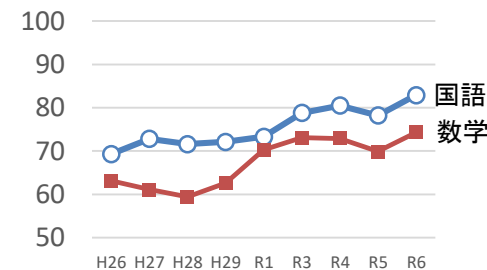


R6	大分市	県	全国
国語	87.4	88.6	86.3
算数	83.0	83.3	82.1



R6	大分市	県
国語	82.9	83.4
数学	72.3	69.0

※全国の数値はない



R6	大分市	県	全国
国語	82.9	84.6	82.7
数学	74.3	72.6	75.7

- 「教科の勉強は好きですか」の質問について、令和5年度までほとんどの調査学年において下降傾向にあったが、令和6年度は小学校第6学年の算数を除き、肯定的回答率が増加した。
- 「教科の授業はよく分かりますか」の質問について、小中いずれも全ての調査学年において肯定的回答率が増加した。

### (2)自分には、よいところがあると思いますか

選択肢	1	2	3	4	その他(無回答等)
	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	あまり 当てはまらない	全く 当てはまらない	
小学校	43.4	42.5	9.4	4.7	0.0
中学校	42.9	43.1	10.1	3.7	0.1

#### ■肯定的回答率

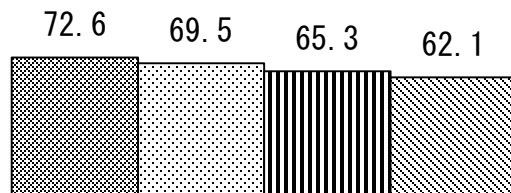
※選択肢1と2の合計

	大分市	県	全国
小学校	85.9	85.1	84.1
中学校	86.0	83.9	83.3

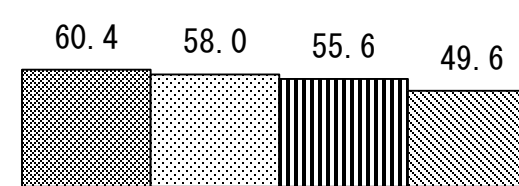
#### ■児童生徒質問[自分にはよいところがある]の回答状況と教科の正答率のクロス集計

☐1. 当てはまる      ☐2. どちらかといえば、当てはまる      ☐3. どちらかといえば、当てはまらない      ☐4. 当てはまらない

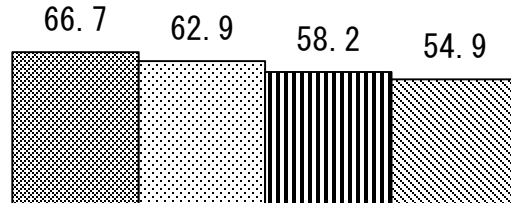
小学校国語



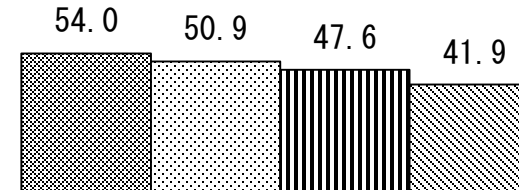
中学校国語



小学校算数



中学校数学



- 「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対し、肯定的回答率は、小学校85.9%、中学校86.0%であり、小中学校いずれも全国平均を上回っている。
- クロス集計の結果では、自分にはよいところがあると思う割合が高いほど、各教科において平均正答率が高い傾向が見られる。

※全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査による

### (3)先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

選択肢	1	2	3	4	その他(無回答等)
	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	あまり 当てはまらない	全く 当てはまらない	
小学校	50.4	40.3	7.0	2.3	0.0
中学校	47.9	44.0	5.9	1.9	0.2

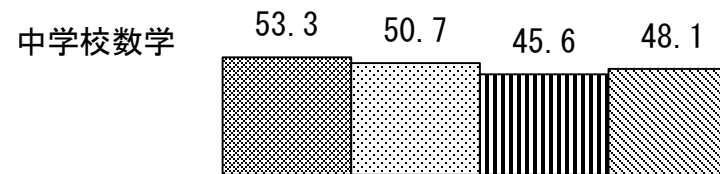
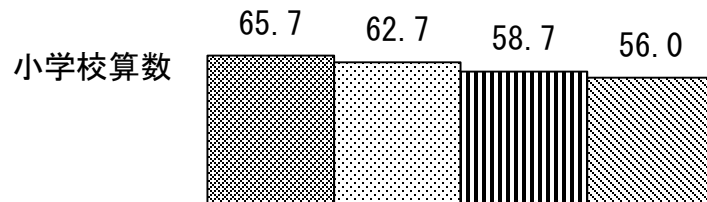
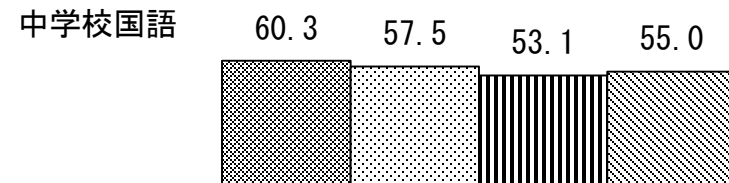
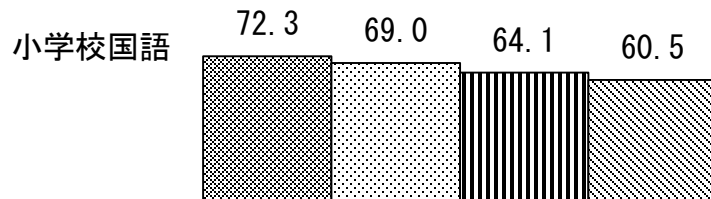
#### ■肯定的回答率

※選択肢1と2の合計

	大分市	県	全国
小学校	90.7	90.6	89.9
中学校	91.9	92.1	90.4

#### ■児童生徒質問[先生はよいところを認めてくれている]の回答状況と教科の正答率のクロス集計

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない



- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対し、肯定的回答率は、小学校90.7%、中学校91.9%で、小中学校いずれも全国平均を上回っている。
- 先生からよいところを認められていると感じている割合が高いほど、各教科において平均正答率が高い傾向が見られる。
- 設問(2)(3)について比較すると、「自分にはよいところがあると思う」と「先生がよいところを認めてくれている」の肯定的回答率の差は、昨年度より小さくなり、小中いずれも5ポイント前後となっている。



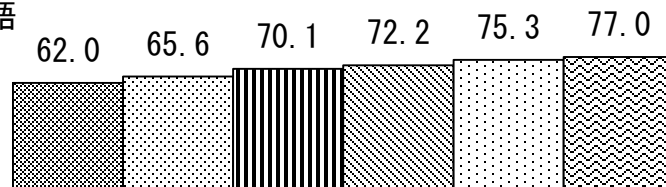
(4) 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか

選択肢	1	2	3	4	5	6	その他 (無回答等)
	4時間以上	3時間以上、 4時間より少ない	2時間以上、 3時間より少ない	1時間以上、 2時間より少ない	1時間より 少ない	全くしない	
小学校	16.7	12.6	20.2	27.1	16.6	6.8	0.0
中学校	10.9	11.4	21.4	22.2	19.1	14.3	0.7

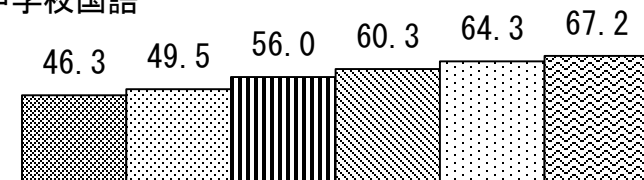
### ■児童生徒質問[1日当たりのゲームの時間]の回答状況と教科の正答率のクロス集計

- 1. 4時間以上
- 2. 3時間以上、4時間より少ない
- 3. 2時間以上、3時間より少ない
- 4. 1時間以上、2時間より少ない
- 5. 1時間より少ない
- 6. 全くしない

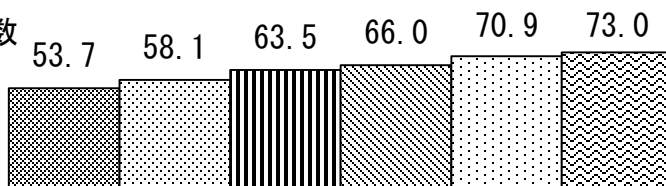
小学校国語



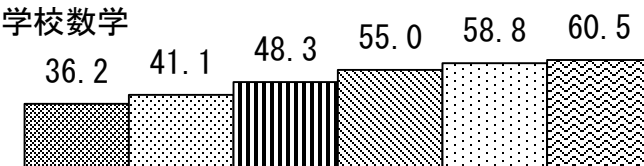
中学校国語



小学校算数



中学校数学



- 1日当たりのゲームの時間を「3時間以上」と回答した児童は29.3%、生徒は22.3%であり、小学校では3.4人に1人、中学校では4.5人に1人が家庭で過ごす時間の多くをゲームに費やしている。
- 平日1日当たりのゲームの時間が長いほど、各教科において平均正答率が低い傾向が見られる。

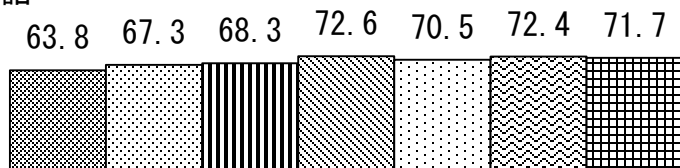
(5) 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	その他 (無回答等)
	4時間以上	3時間以上、 4時間より少ない	2時間以上、 3時間より少ない	1時間以上、 2時間より少ない	30分以上、 1時間より少ない	30分より 少ない	携帯電話や スマートフォンを 持っていない	
小学校	11.2	8.7	12.9	18.3	14.1	13.8	21.0	0.0
中学校	12.8	12.0	24.8	26.4	11.6	6.6	4.8	0.8

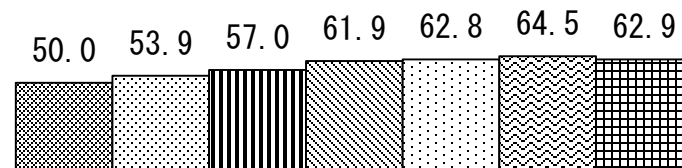
### ■児童生徒質問[1日当たりのSNSや動画視聴の時間]の回答状況と教科の正答率のクロス集計

- ☐1. 4時間以上
- ☐2. 3時間以上、4時間より少ない
- ☐3. 2時間以上、3時間より少ない
- ☐4. 1時間以上、2時間より少ない
- ☐5. 30分以上、1時間より少ない
- ☐6. 30分より少ない
- ☐7. 携帯電話やスマートフォンを持っていない

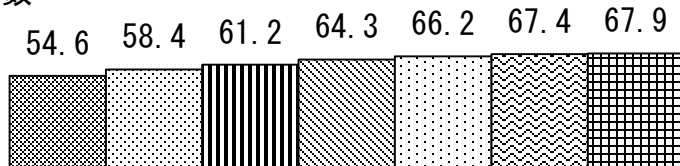
#### 小学校国語



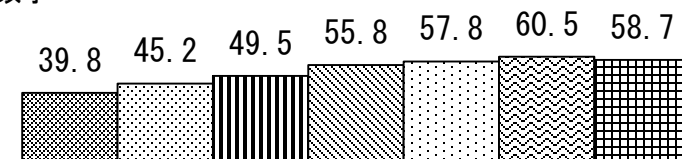
#### 中学校国語



#### 小学校算数



#### 中学校数学

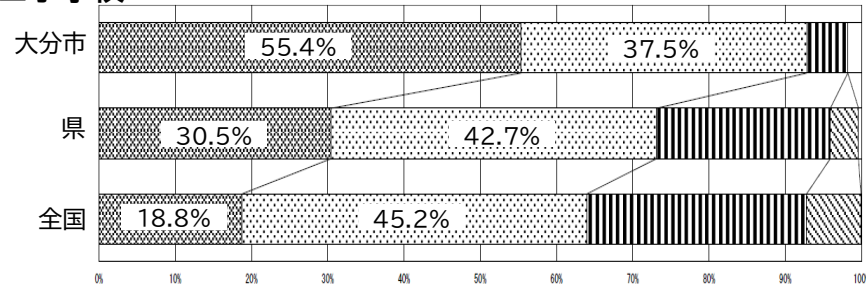


- 1日当たりのSNSや動画視聴の時間を「3時間以上」と回答した児童は19.9%、生徒は24.8%であり、小学校では5人に1人、中学校では4人に1人が家庭で過ごす時間の多くをSNSや動画視聴に費やしている。
- 平日1日当たりのSNSや動画視聴の時間が長いほど、各教科において平均正答率が低い傾向が見られる。
- 設問(4)(5)について比較すると、小学生はゲーム、中学生はSNSや動画視聴の時間が長い傾向が見られる。
- 各学校では、「学習・生活のきまり」を作成したり、中学校のテスト週間に合わせた「家庭学習習慣化ウィーク」を設け、期間中は校区で共通してノーメディア・ノーゲームを呼びかけたりするなど、家庭での過ごし方について児童生徒への指導や家庭への啓発を行っており、今後も引き続き保護者と連携した取組を推進していく必要がある。

※全国学力・学習状況調査 学校質問調査による

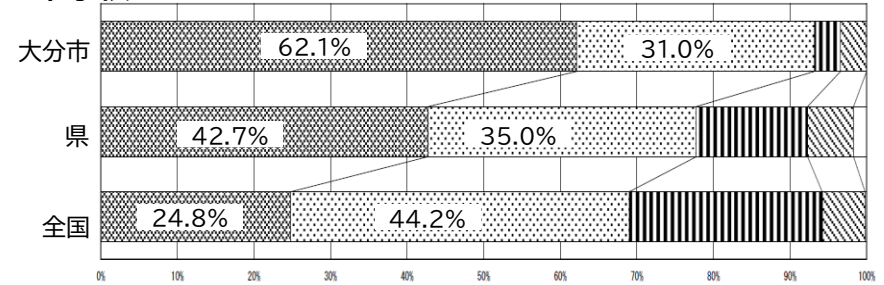
### (6)前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか

#### ■小学校



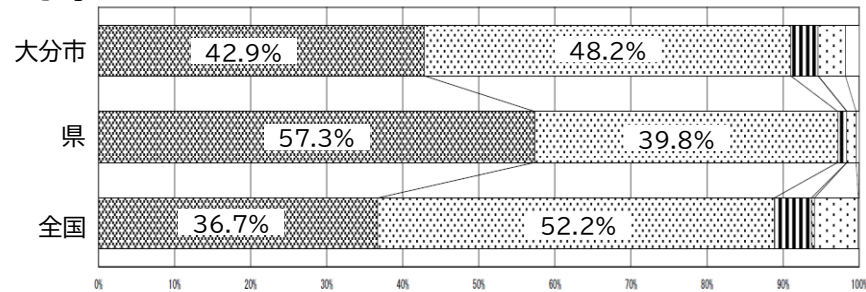
□1. よく行った □2. どちらかといえば、行った □3. あまり行わなかった □4. 全く行わなかった □その他、無回答

#### ■中学校



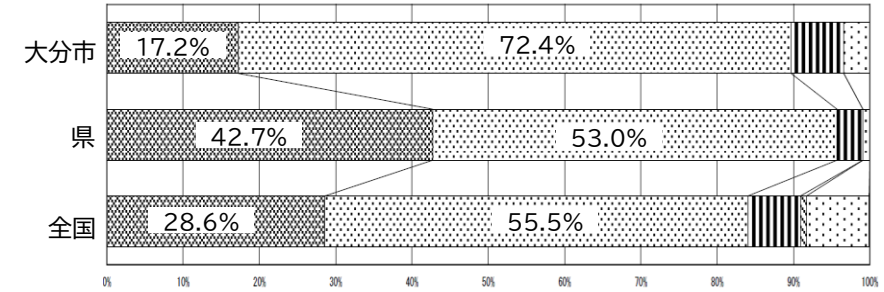
### (7)コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか

#### ■小学校



□1. そう思う □2. どちらかといえば、そう思う □3. どちらかといえば、そう思わない □4. そう思わない □5. 取組を行わなかった □その他、無回答

#### ■中学校

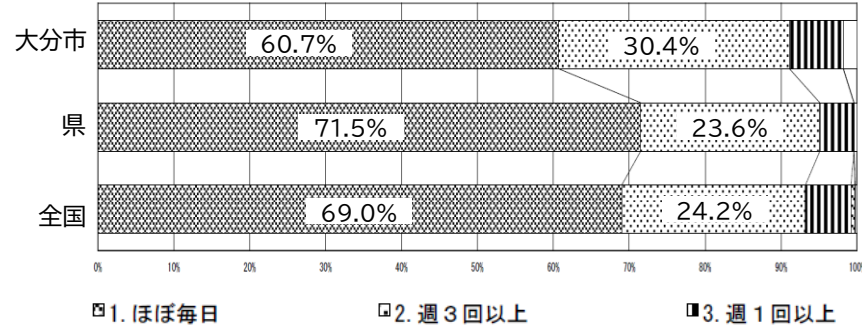


- 校種間連携に関する質問に対して、肯定的に回答した学校の割合は小92.9%、中93.1%と全国平均の小64%、中69%を大きく上回っており、小中一貫教育の取組が充実していることが分かる。今後も、児童生徒の心身の発達の変化や生徒指導上の諸問題、学力形成上の特質の違い等による小中の段差の軽減を図り、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育成し、生きる力を育む上から、義務教育9年間を見通した系統的・連続性のある教育の推進を図る必要がある。
- 地域とともにある学校づくりに関する質問に対して、肯定的に回答した学校の割合は、小91.1%、中89.6%といずれも全国平均を上回っている。今後も、教育課程の趣旨や目指す子ども像について、保護者懇談会や学校運営協議会等において、家庭や地域と共有し、学校や地域の実情を踏まえた特色ある教育課程となるよう見直し・改善するなど、共に児童生徒の豊かな学びと育ちを創造していくことが必要である。

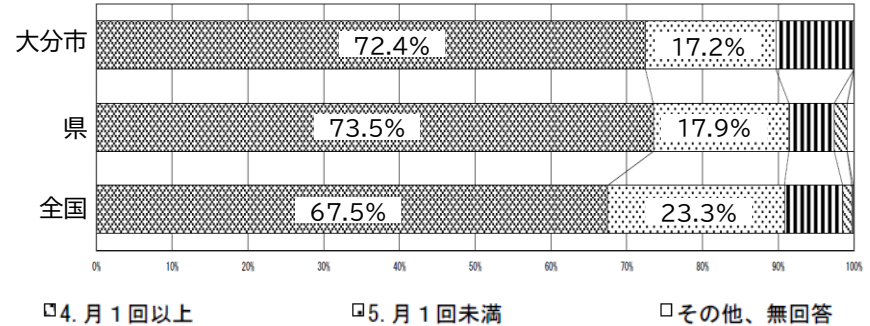
※全国学力・学習状況調査 学校質問調査による

### (8)前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

#### ■小学校

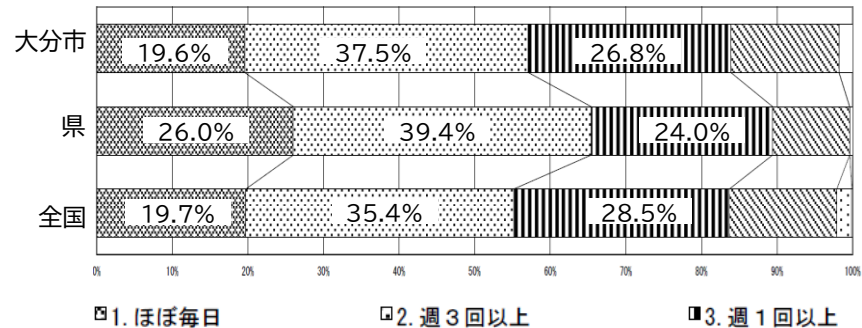


#### ■中学校

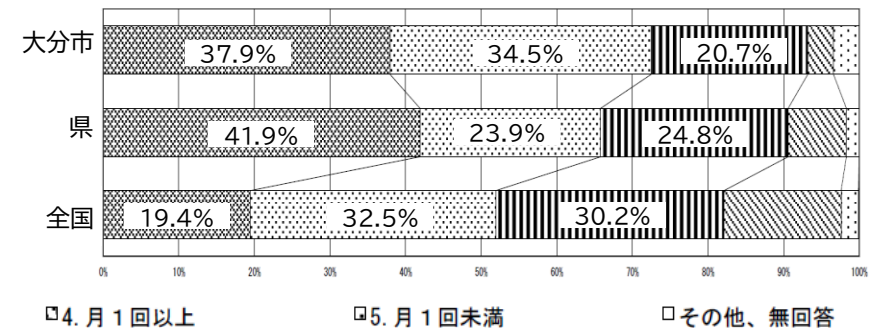


### (9)自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

#### ■小学校



#### ■中学校



- 授業における一人1台端末の活用について、「前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか」の質問に対して、肯定的に回答をした学校の割合は小91.1%、中89.6%で全国を下回っている。また、「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」の質問に対して、肯定的に回答をした学校の割合は小57.1%、中72.4%と全国平均を上回っている。
- 今後も、授業における更なるICT機器の活用を進め、個別学習やグループ別学習、学習内容の習熟の程度に応じた補充的な学習や発展的な学習など、多様な学びの充実を図っていく必要がある。

## 【指導主事による校内研修等での指導】

- 各学校の校内研修等における、本市作成の「授業力向上ハンドブック」等を活用した指導・助言
- 小学校全学年を対象とした国語科の授業視察、校内研修等における「書く力の育成」の説明
- 中学校第1学年を対象とした教科指導マイスター及び教科担当指導主事による5教科(国語・社会・数学・理科・英語)の授業視察

## 【分析シートの作成、活用】

- 各種学力調査の結果を踏まえ、分析・考察を行い、指導上の留意点等を掲載した分析シートの作成
- 各学校の校内研修、各種研修会、校長会等における、本資料の効果的な活用についての説明
- 大分市標準学力調査分析説明会における調査結果を活用した効果的な取組についての説明及び協議

## 【教科指導マイスターの活用】

- 経験豊富で実績のある退職教職員を「教科指導マイスター」として各中学校及び義務教育学校に派遣し、授業観察及び授業改善に向けた指導・助言
- 夏季休業中の小学校における、校内研修での指導・助言

## ※全国学力・学習状況調査に係る分析シート(算数・数学)

大分市 【小学校】	◇ 「数と計算」「図形」「データの活用」において、全国の平均正答率を上回っている。	大分市 【中学校】	◇ 「数と式」では、文字式で表す問題で、全国平均正答率を3.4ポイント上回っている。
	◇ 「数と計算」では、示された計算の仕方を考察し、成り立つ性質を活用して記述する問題が全国平均正答率を3.4ポイント上回っている。		◇ 「数と式」の正負の数の加法の計算や「関数」のグラフのy軸の交点が表すものを選ぶ問題では、いずれも市の平均正答率が8割を超えている。
	◆ 「変化と関係」では、問題から必要な情報を読み取り、速さを求めることに課題がある。		◆ 「図形」では、筋道を立てて考え、証明することに課題がある。
	◆ 記述式の問題では、考えの理由を言葉や図、式で説明することに課題がある。		◆ 記述式の問題で、無解答率が高くなっている。

課題が見られる問題	大問4 (3)	自校	大分市	全国
			27.3%	31.0%

【学習指導要領における領域・内容】 第5学年 C(2)異種の二つの量の割合  
【出題の趣旨】 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。  
【誤答の傾向】

自校	大分市
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「道のり」と「時間」に着目して説明ができていない児童が11.1%</li> <li>・道のりが等しい時の速さを時間の短さに着目して比べることに課題がある。</li> </ul>

**指導に当たって**

- 速さの指導に当たっては、速さは一つの量だけでは表すことができない事象であり、「道のり」と「時間」という異種の二つの量の割合として捉える指導をすることが必要である。
- 授業においては、道のりか時間のどちらかが等しい場合の速さ比べを行う。「道のりが等しい時、時間が短いほうが速い」等の説明ができるよう、一方の量が等しい時、もう一方の量がどうなれば速いと言えるのか、言葉、図などを用いて表現させることが大切である。
- 本校では、

課題が見られる問題	大問9 (1)	自校	大分市	全国
			21.0%	25.8%

【学習指導要領における領域・内容】 第2学年 B(2)図形の合同  
【出題の趣旨】 筋道を立てて考え、証明することができる。  
【誤答の傾向】

自校	大分市
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無解答 36.2%</li> <li>・結論AQ=PBを仮定として用いている生徒が11.9%</li> <li>・AC=PC、CQ=CBまでしか示せていない生徒が8.5%</li> </ul>

**指導に当たって**

- 第2学年の証明の指導に当たっては、証明の筋道を想定させ、根拠をもとに用語や記号を用いて自分なりに表現することから始め、よりよい証明に改善していくことが大切である。
- 授業においては、証明する図形を明確にした上で、仮定から導かれる事柄を明らかにしたり、結論を導くために必要な事柄を結論から逆向きに考えたりする。また、推論の過程に誤りのある証明を読んで修正箇所を話し合わせるなど、証明を吟味する活動を適宜取り入れることが必要である。
- 本校では、